

お茶で世界を変える「はんなんお茶のある暮らし」プロジェクト

大阪府大阪市 × 株式会社伊藤園

取組概要

阪南市と現代社会の共通課題である「健康づくり」に取り組む株式会社伊藤園が協力し、お茶を通じて、住民の心身・社会的な健康の保持を図り、ウェルビーイングと生きがいに満ちた生活様式の実現に向け取り組んでいる。



「茶畑の造成」を通じたSDGs推進策



お茶のある暮らしサポーター募集チラシ

基本情報

代表地方公共団体	大阪府大阪市
代表民間団体	株式会社伊藤園
他の連携団体等	一般社団法人はんなんテ
カテゴリ	ゼロカーボン／健康増進／地域振興・交流
事業費	
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	2022年4月～

取組内容



植樹祭イベント（令和4年4月）



阪南市お茶畑（令和4年8月時点）

この取組で解決した課題	<p>少子高齢化、人口減少等の原因により農業の担い手不足となり遊休農地の利活用が課題となっていた。</p> <p>また、コロナ禍の中、外出自粛など地域住民同士のつながりの希薄化が懸念され、地域力のアップのための市民の交流の場、賑わいづくりの拠点の再構築が必要となっていたが、お茶畑により、遊休農地の解消や市民が関わることで賑わいづくりや新たなコミュニティの形成、健康づくりにも寄与することを期待している。</p> <p>さらに、茶樹はCO₂を吸収・固定することから、グリーンカーボンとしてカーボンニュートラルな社会の実現についても、寄与することを期待している。</p>
解決に向けた手法	<p>令和4年4月には、高齢化による担い手不足、人口減少等の原因により課題となっていた市内の遊休農地の利活用として、伊藤園より提供いただいたお茶の苗木を市民100名以上の皆さんと一緒に植樹祭を開催し、市民と協働で栽培をスタートさせた。茶畑は市民の交流の場、賑わいづくりの拠点としての意義も有する。</p> <p>また市民の健康づくりの推進及びお茶のある暮らしを推進するため伊藤園との協働による「お茶セミナー」を実施した。</p> <p>今後は、各種団体との共創により市内においてお茶による健康コミュニティづくりを行うとともに、お茶が持つ効能・価値、飲用習慣が、市民生活にどのような有益な影響をもたらすか検証を株式会社伊藤園や大学と連携し調査研究を行い、ウェルビーイングと生きがいに満ちた生活様式の実現をめざし、健康寿命の延伸につなげたい。</p>

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	阪南市は遊休農地に関する調整やお茶を軸にした健康事業を展開し、フレイル予防、認知症対策を推進。 株式会社伊藤園は、市民向けのお茶セミナーの実施や「お茶のある暮らし」の強化によるウェルビーイング（持続的幸福感）に及ぼす影響評価研究等を実施する。
地域関係者との連携方法	【市民】お茶のある暮らしプロジェクト活動により、健康的な生活を実現するため活動に強力して下さる方をグリーンサポーターとして認定し、活動支援者として協働。 【一般社団法人ハンナンテ】市内で増加しつつある遊休農地を活用し、茶畑を造成・栽培。また、茶畑の管理だけでなく来訪者が地域農業に触れることの出来る憩う場づくりを実施。
資金調達方法	補助金・助成金・企業版ふるさと納税、寄附金
資金調達方法の補足	SDG s モデル事業補助金を利用し「阪南市グリーンファーム（茶畑）開墾事業補助金」として上限700万円の補助を実施している。今後、茶摘みワークショップや茶摘み体験を行うとともに、釜炙等の予定。お茶のある暮らしの浸透、お茶への親しみの醸成を目的に、お茶を使い阪南産の海産物を使った「阪南だし茶漬け 天茶漬け」の試食会や新たな地域活性につながるふるさと納税の新商品の開発を実施。
事業推進上の課題・工夫	遊休農地を茶畑に開墾するにあたり土地掘削敷直し等が必要となることもあり、茶畑開墾事業の準備段階から該当する遊休農地の地主の理解・協力を得ることに苦労するのではないかという懸念があったため、個別に事業の情報共有、説明を実施し、理解に得ることに努めた。 また、株式会社伊藤園と連携の上、茶畑の持続的な運用を行うことが可能な企業・法人を公募にて募集し、プロポーザル方式にて一般社団法人を選定した。

担当者のコメント

SDG s 未来都市モデル事業推進に向けて、グリーンカーボンの核となる株式会社伊藤園との今回の連携は大きな取組となります。その他、阪南市ではブルーカーボンの漁師鮮度をはじめ多様なステークホルダーとの共存による新しい地域価値の創造をめざし取組を行っている。

これらは、2025年大阪関西万博を見据え、阪南市はチームエキスポ共創パートナーとなっており、共創チャレンジとして「お茶で世界を変える、伊藤園×阪南プロジェクト」を登録しており、本市の里山・里海などの地域資源を生かし、ますます阪南市を世界に発信していきたいと考えている。そのためにも、シティプロモーションを積極的に行い、阪南市をフィールドに協働共創し、さらに様々な企業との連携を図ることで推し進めて行く。その先には、市民の満足度の向上、選ばれるまちとしての価値の確立、関係人口・交流人口を生み出し、経済・社会・環境の三側面の相乗効果を発揮させながら、時代の一歩先を行く持続可能なまちづくりに取組みたい。



阪南茶園・プロジェクトチーム

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点 茶畑の造成や栽培、食育等の連携を通じて地域社会とのつながりを創出するこの「お茶のある暮らしプロジェクト」は、お茶を介した地域コミュニティの拡大、お茶の教育（日本文化の継承）、名産品やふるさと納税の商品開発、市民の健康増進（認知機能へのアプローチ、免疫力等）、お茶の疫学調査など、これらすべて阪南市の地域活性化の取組の大きな柱となります。また、カーボンニュートラルな社会の構築にも大きな役割を果たすものと考えている。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 遊休農地を活用した茶畑の開墾として一般社団法人ハンナンテとの連携 お茶を通じた商品開発やメニュー考案には学校法人村川学園との連携 食育活動として大阪ガスネットワーク株式会社や地域の医療機関との連携</p> <p>③モデル性・波及性 地域社会とのつながりを深め、ファンを増やしたい。この事業が、地域をつなぐ架け橋となりえる存在として確立されつつある。本市周辺市町でも同様の取組が進められており、今後益々本事業の広がりが期待されている。また、大阪南部に位置する阪南市に茶畑を造成し、関西国際空港から世界に羽ばたくお茶のある暮らしプロジェクトとして発展していくことを期待している。</p>
----------------	--